

神鋼鋼板加工

建材型厚板シャー大手の神鋼鋼板加工（本社・千葉県市川市二又新町）は、レーザ切断後の切板部材の片付けをロボット



設備の安全稼働を祈願する近藤社長

自動ハンドドリム本格稼働で安全祈願

が全自動を行う「自動ハンドリングシステム」が本格稼働体制に入ったことを機に、7月下旬に安全祈願・起動式を行った。

（2面参照）

同社からは 近藤真一社長、須藤正樹取締役製造部長をはじめ当該社員が参集。また、本システムを共同開発した溶断メーカー大手の小池酸素工業からは、横野健一取締役常務執行役員ら関係者も出席した。

型扇風機3台をフルパワーで送風するなど十分な対策を講じた。門型レーザで切断したあとの切板部材の片付けを介さずロボットが自動でハンドリングする本システムは、作業者の労務負担軽減や片付け作業時間の短縮とそれに伴う設備の稼働率アップ、生産性向上といった導入効果が期待される。